

# 國學院大學学術情報リポジトリ「K-RAIN」

## ポップカルチャーにおける神社・巫女に関する考察

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 國學院大學 公開日: 2023-02-05 キーワード: 宗教, ポップカルチャー, 神社, 巫女, 聖地巡礼 作成者: 石井, 研士 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.57529/00000853">https://doi.org/10.57529/00000853</a>

# ポップカルチャーにおける神社・巫女に関する考察

石井 研 士

## キーワード

宗教 ポップカルチャー 神社 巫女 聖地巡礼

## はじめに

本論はアニメやマンガなどのポップカルチャーに神社や巫女がどのような役割・意味づけをもって登場しているのかを考察することで、情報化と文化変容の問題を扱う。筆者はすでにポップカルチャーと宗教に関する複数の論文を公表している<sup>(1)</sup>。論文の目的は同じである。実生活の中で宗教との具体的な関わりが薄れる一方で、情報としての宗教はその量を増し、結果的に日本人、とくに若者に対して影響力を増しているように見える。実態がどのようなものであり、どの程度の宗教性（宗教との関わり）が見られるのかを検証したいと思う。

若者を対象にしたアニメやマンガもしくはゲームには、実に多くの宗教者（と呼んでおく）や宗教施設が登場する。巫女、宮司（神職）、修道女（シスター）、陰陽師、魔術師、エクソシスト、魔女、魔法少女、魔法使い、超能力者、錬金術師、僧侶、神、悪魔、天使、幽霊、妖怪、式神などなど、呼称も装束も伝統的なものからオリジナルまで多様である。また、こうした宗教者が居住する場所、活動する場所として神社、寺院、教会風の建物等、既存の概念を超えるものまで多様に描かれている。

これらの宗教者の中で、頻度を考えたときに、もっとも多く登場するのは巫女だと思われる。メインキャラとしてはもちろん、脇役として、あるいは登場人物が一時的に（アルバイトとして）巫女として登場する作品は少なくない。その結果、鳥居や神社がアニメやマンガに描かれることは珍しいことではないのである。

本論では、ポップカルチャーにおける神社と巫女について考察するが、冒頭で、他の宗



「とある魔術の禁書目録」  
DVD第1巻、ジェネオンエン  
タテインメント、2009年

教者と施設に関しても、人気作品を中心にいくつか見ておきたいと思う。挿入した図の女性は「とある魔術の禁書目録」<sup>(2)</sup>という人気アニメの主人公である。正式な名前は明らかにされておらずイギリス人で「インデックス」と名乗っている。説明によれば、イギリス清教第零聖堂区「必要悪の教会（ネセサリウス）」に所属するシスターである。それゆえにインデックスが着用している服は修道服ということになる。

そもそも私たちは修道女を目にする機会があるのだろうか。カトリック系の教育機関は保育園・幼稚園から大学まで修道会を母体にしていて。聖心女子大学は聖心会（Societas Sacratissimi Cordis Jesu）という教育修道会を設立母体としていて。渋谷区広尾の大学敷地内には修道女の起居するエリアが設けられていて、校内でお目にかかることは珍しくない。

こうした場合でなくとも、街中や電車の中で姿をみかけることはあるし、映画でみることもあるかもしれない。しかし、修道女は私たちの日常生活において一般的ではなく、ましてや修道服を正確に思い起こすことのできる者はほとんどいないだろう。

インデックスの服装は明らかに通常の修道女のものではない。実際の修道服や神父の服装をそのまま描くことには問題がある。アニメやマンガでは、教会のような建物や組織を背景にして、通常とは異なった服装を作画すれば十分ということではないか。視聴者も正確な知識を持っているわけでも望んでいるわけでもないわけで、そうした曖昧な状況の中で「シスター」は成立していることになる。

それゆえに、ポップカルチャーに登場するシスターの服装はかなりデフォルメされている。「魔



「あまえないでよっ!!」第1巻、  
ワニブックス、2004年

法少女リリカルなのは StrikerS」<sup>(3)</sup>に登場する修道女たちは、正規からすれば完全な逸脱であるにちがいない。肌の露出が大きく、質素とはほど遠い。それでも修道女やシスターとして描かれる。読者にとっては、服装が正規かどうかは問題にはならない。カトリックの信仰や制度を学ぶのが目的はなく、あくまでポップカルチャーに登場する魅力的なキャラクターであれば十分である。

巫女やシスターと比較して、ポップカルチャーに「尼僧」が登場することはあまりない。美少女尼僧たちとの共同生活が続り広げられるラブコメ「あまえないでよっ!!」<sup>(4)</sup>のヒロイン・南部千歳の姿はどうみても尼僧には見えない。作務衣とも異なっている。それでも草履を履いたり、高校一年生と

しては地味な装束は、状況としての寺と相まって、「尼僧」ということになるのだろう。

## ポップカルチャーにおける神社・巫女

アニメやマンガに登場する宗教者として圧倒的な出現率とインパクトを示しているのは巫女である（神職ではない）、という主張にはそれほど異論はないと考える。しかしながら他方で、神社を舞台としなければ、あるいは巫女が主人公でなければ成立しないアニメやマンガがあるかといったらすぐに思い浮かぶだろうか。あるいは、作品を通して神社や巫女の姿、神道を学んだ、という作品があるだろうか。ないわけではないが、ごく稀であり、人気作品は少ないのではないか。視聴者はアニメやマンガを通して神道を知りたいと思っているわけではない。しかしながら今一度翻って、それではなぜこうも多くの神社や巫女が登場するのだろうか。

まずは神社や巫女が登場する作品一覧から示すことにしたい。作品はアニメに限定してある。インターネット配信など、アニメの方がマンガよりも再現率が高く影響力は大きいと考えるためである。また、マンガまで含めるとリストが膨大になるためでもある。

図表 1 神社・巫女が登場する主たるアニメ一覧

書名	放送開始年	放送終了年	話数
うる星やつら	1981年10月	1986年3月	218+スペシャル
キャプテン	1983年1月	1983年7月	26
美少女戦士セーラームーン	1992年3月	1997年2月	200+スペシャル1
幽☆遊☆白書	1992年10月	1995年1月	112
GS 美神 極楽大作戦!!	1993年4月	1994年3月	45
BLUE SEED	1994年10月	1995年3月	26
ふしぎ遊戯	1995年4月	1996年3月	52
VS 騎士ラムネ &40炎	1996年4月	1996年9月	26
HAUNTED じゃんくしょん	1997年4月	1997年6月	12
スレイヤーズ TRY	1997年4月	1997年9月	26
カードキャプターさくら クロウカード編	1998年4月	1999年6月	46
サイレントメビウス	1998年4月	1998年9月	26
serial experiments lain	1998年7月	1998年9月	13
神風怪盗ジャンヌ	1999年2月	2000年1月	44
犬夜叉	2000年10月	2004年9月	167
Dr. リンにきいてみて!	2001年3月	2002年2月	51
学園戦記ムリョウ	2001年5月	2001年12月	26
Kanon	2002年1月	2002年3年	14
炎の蜃気楼	2002年1月	2002年4月	13
HAPPY ★ LESSON	2002年4月	2002年6月	13
東京アンダーグラウンド	2002年4月	2002年9月	26
円盤皇女ワるきゅーレ	2002年7月	2002年9月	12
朝霧の巫女	2002年7月	2002年12月	26
灰羽連盟	2002年10月	2002年12月	13

らいむいろ戦奇譚	2003年1月	2003年3月	13
ぼぼたん	2003年7月	2003年10月	12
SAMURAI 7	2004年6月	2004年12月	26
エルフェンリート	2004年7月	2004年10月	13+1
陰陽大戦記	2004年9月	2005年9月	52
うた∞かた	2004年10月	2004年12月	12+1
月詠	2004年10月	2005年3月	25 + 未放送1話
神無月の巫女	2004年10月	2004年12月	12
AIR	2005年1月	2005年3月	12
魔法先生ネギま!	2005年1月	2005年6月	26
IZUMO- 猛き剣の閃記-	2005年4月	2005年6月	12
うえきの法則	2005年4月	2006年3月	51
かみちゅ!	2005年6月	2005年9月	12
ノエイン もうひとりの君へ	2005年10月	2006年3月	24
陰からマモル!	2006年1月	2006年3月	12
いぬかみっ!	2006年4月	2006年9月	26
シムーン	2006年4月	2006年9月	26
ひぐらしの鳴く頃に	2006年4月	2006年9月	26
夢使い	2006年4月	2006年6月	12
神様家族	2006年5月	2006年8月	13
ゴーストハント	2006年10月	2007年3月	25
天保異聞 妖奇士	2006年10月	2007年3月	25
幕末機関説いろはにほへと	2006年10月	2007年4月	26
東京魔人學園剣風帖	2007年1月	2007年	14
シャイニング・ティアーズ	2007年4月	2007年6月	13
ながされて藍蘭島	2007年4月	2007年9月	26
らき☆すた	2007年4月	2007年9月	24
CODE-E	2007年7月	2007年9月	12
CLANNAD	2007年10月	2008年3月	22+2
Myself; Youself	2007年10月	2007年12月	13
PRISM ARK	2007年10月	2007年12月	12
ナイトウィザード THE ANIMATION	2007年10月	2007年12月	13
レンタルマギカ	2007年10月	2008年3月	24
狼と香辛料	2008年1月	2008年3月	12+ 未放送1
あまつぎ	2008年4月	2008年6月	13
かのこん	2008年4月	2008年6月	12
ペンギン娘♥はあと	2008年4月	2008年11月	22
我が家のお稲荷様!	2008年4月	2008年9月	24
紅	2008年4月	2008年6月	12
セキレイ	2008年7月	2008年9月	12+OVA
夏目友人帳	2008年7月	2008年9月	13
かんなぎ	2008年10月	2008年12月	14
屍姫	2008年10月	2009年3月	25+1
とある魔術の禁書目録	2008年10月	2009年3月	24
まかでみ・WAっしょい!	2008年10月	2008年12月	12
クイーンズブレイド 流浪の戦士	2009年4月	2009年6月	12
けいおん!	2009年4月	2009年6月	12+1
うみものがたり ~あなたがいてくれたコト~	2009年6月	2009年9月	12+1
化物語	2009年7月	2009年9月	15
おまもりひまり	2010年1月	2010年3月	12
刀語 -かたながたり	2010年1月	2010年12月	12
STAR DRIVER 輝きのタクト-スタードライバー	2010年10月	2011年4月	25
ヨスガノソラ	2010年10月	2010年12月	12

神のみぞ知るセカイ	2010年10月	2010年12月	12
魔法少女まどか☆マギカ	2011年1月	2011年4月	12
STEINS;GATE	2011年4月	2011年9月	24+SPECIAL
星空へ架かる橋	2011年4月	2011年6月	13
日常	2011年4月	2011年9月	26
緋弾のアリア	2011年4月	2011年6月	12+ 未放送1
blood c	2011年7月	2011年9月	12
ソースは猫神やおよろず	2011年7月	2011年9月	12+ OVA
神様ドォルズ	2011年7月	2011年9月	13
たまゆら～hitotose～	2011年10月	2011年12月	13 (含特別編)
ちはやふる	2011年10月	2012年3月	25
BRAVE10	2012年1月	2012年3月	12
ハイスクールD×D	2012年1月	2012年3月	12+OAD2
妖狐×僕SS	2012年1月	2012年3月	12+ 特別編
アクセル・ワールド	2012年4月	2012年9月	24
氷菓	2012年4月	2012年9月	22+1
黄昏乙女×アムネジア	2012年4月	2012年6月	12+ 未放送1
夏色キセキ	2012年4月	2012年6月	12
緋色の欠片	2012年4月	2012年6月	13
織田信奈の野望	2012年7月	2012年9月	12
カンピオーネ! ～まつろわぬ神々と神殺しの魔王～	2012年7月	2012年9月	13
神様はじめました	2012年10月	2012年12月	13+ OVA
ささみさん@がんばらない	2013年1月	2013年3月	12
幕末義人伝 浪漫	2013年1月	2013年3月	12
八犬伝－東方八犬異聞－	2013年1月	2013年3月	13
RDG レッドデータガール	2013年4月	2013年6月	12
神さまのいない日曜日	2013年7月	2013年9月	12+OVA
有頂天家族	2013年7月	2013年9月	13
ぎんぎつね	2013年10月	2013年12月	12
ストライク・ザ・ブラッド	2013年10月	2014年3月	24
東京レイヴンズ	2013年10月	2014年3月	24
ログ・ホライズン	2013年10月	2014年3月	25
俺の脳内選択肢が、学園ラブコメを全力で邪魔している	2013年10月	2013年12月	10+ OAD
Z/X IGNITION	2014年1月	2014年4月	12
いなり、こんこん、恋いろは。	2014年1月	2014年3月	10
咲-Saki- 全国編	2014年1月	2014年4月	13
神々の悪戯	2014年4月	2014年6月	12
精霊使いの剣舞	2014年7月	2014年9月	12
結城友奈は勇者である	2014年10月	2014年12月	12
繰繰れ! コックリさん	2014年10月	2014年12月	12
ISUCA	2015年1月	2015年3月	10
えとたま	2015年4月	2015年6月	12
ダンジョンに会いを求めるのは間違っているだろうか	2015年4月	2015年6月	13
響け! ユーフォニアム	2015年4月	2015年6月	13
GATE (ゲート) - 自衛隊 彼の地にて、斯く戦えり -	2015年7月	2016年3月	24
オーバーロード	2015年7月	2015年9月	13
(うそつくな) 温泉幼精ハコネちゃん	2015年10月	2015年12月	13
うたわれるもの 偽りの仮面	2015年10月	2016年3月	25
終物語	2015年10月	2015年12月	20

ノラガミ ARAGOTO	2015年10月	2015年12月	13+OAD2
暦物語	2016年1月	2016年3月	12
くまみこ	2016年4月	2016年6月	12
ばくおん!!	2016年4月	2016年6月	12
ふらいんぐういっち	2016年4月	2016年6月	12
迷家-マヨイガー-	2016年4月	2016年11月	12
ラブライブ!サンシャイン!!	2016年7月	2016年9月	13
装神少女まとい	2016年10月	2016年12月	12+ OVA
刀剣乱舞-花丸-	2016年10月	2016年12月	12
うらら迷路帖	2017年1月	2017年3月	12
けものフレンズ	2017年1月	2017年3月	12
ソード・オラトリア	2017年4月	2017年7月	12
つぐもも	2017年4月	2017年6月	12
ひなこのーと	2017年4月	2017年6月	12
武装少女マキャヴェリズム	2017年4月	2017年6月	12
月がきれい	2017年4月	2017年6月	12
異世界はスマートフォンとともに。	2017年7月	2017年9月	12
天使の3P!	2017年7月	2017年9月	12
このはな綺譚	2017年10月	2017年12月	12
結城友奈は勇者である - 鷲尾須美の章 - / - 勇者の章 -	2017年10月	2018年1月	12+ 特別編
キリングバイツ	2018年1月	2018年3月	12
グランクレスト戦記	2018年1月	2018年6月	24+1
ハクメイとミコチ	2018年1月	2018年3月	12
刀使ノ巫女	2018年1月	2018年6月	24
あまんちゅ! ~あどばんす~	2018年4月	2018年6月	12
かくりよの宿飯	2018年4月	2018年9月	26
ひそねとまそたん	2018年4月	2018年6月	12
踏切時間	2018年4月	2018年6月	12
ISLAND	2018年7月	2018年9月	12
CONCEPTION 俺の子供を産んでくれ!	2018年10月	2018年12月	12

## 神社という設定

巫女や神が主役で、舞台として頻繁に神社が出てくるアニメやマンガがある。「かみちゅ!」<sup>(5)</sup>などではきちんと社殿が描かれている。後述するように、こうした場合にはモデルとされる神社がある場合が多く、モデルとなった神社にはその



映画「ちはやふる 結び」  
ポスター、2018年

後聖地巡礼としてファンが訪れることがわかっている。インターネットで「作品名 聖地巡礼」で検索すると、場面毎に現地と詳細な対応映像が掲載されている。

「ちはやふる」<sup>(6)</sup>は競技カルタに青春をかけた高校生の物語であるが、全国高等学校かるた選手権大会や競技かるた名人位・クイーン位決定戦が開催される近江神宮がきれいにトレースされて描かれている<sup>(7)</sup>。物語の節目になるような場面で、階段下から朱塗り

の楼門が見上げられ、本殿に参拝する主人公達の姿が描かれる。

「いなり、こんこん、恋いろは。」<sup>(8)</sup>の舞台は伏見稲荷である。作品では伊奈里神社となっているが、作品のオープニングに描かれている上空からの俯瞰図をはじめ、作品中ふんだんに登場する千本鳥居を始めとした神社の境内は、写真のように酷似している。主人公の女子中学生の名前は「伏見いなり」である。



『氷菓』第12巻、  
KADOKAWA、2019年

「氷菓」は学校生活に隠された謎に挑むミステリーである。アニメの最終話「遠まわりする雛」でヒロインの千反田えるは、水梨神社の生きびなになる。祭りのモデルは飛騨一宮水無神社の生きびな祭りで、DVDにはスタッフが現地を訪れて、神社を取材している様子が収められている。アニメとして使われた社殿を始め社務所の内部など実写と見違えるばかりの映像である。

全体的に見れば、社殿がきちんと描かれている作品はそう多くはない<sup>(9)</sup>。人気作品で巫女が登場するものなかには、社殿がまったく描かれていないものも相当数見られる。

「美少女戦士セーラームーン」<sup>(10)</sup>にはヒロインの月野うさぎの他に4人のセーラー戦士が登場する。その内の一人に火野レイがいる。火野レイは祖父が宮司を務める火川神社に住み、巫女姿で登場することがある。強い靈感を持ちフォボスとデモスという名前の2羽のカラスを飼っている。アニメでは、火川神社がセーラー戦士たちの集合場所になっている。セーラームーンの舞台は作品中では東京十番となっているが、モデルは港区麻布十番であり、火川神社も氷川神社であることはファンの間では衆知の事実である。マンガの中で火川神社が登場するのはわずかに四回である。すべてはほぼ同じアングルからの鳥居の絵柄となっている。鳥居の手前には「火川神社」と彫られた石柱が見える。

「らき☆スタ」<sup>(11)</sup>や「ガールズパンツァー」<sup>(12)</sup>「あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない」<sup>(13)</sup>「曇天に笑う」<sup>(14)</sup>「有頂天家族」<sup>(15)</sup>でも同様である。「らき☆スタ」の主人公4人の中に柊かがみ・つかさの二子がいる。ふたりの実家は鷹宮神社で、アニメの正月の場面では巫女として奉仕する姿が描かれている。それでは原作のマンガの中に「神社」が描かれているかという、社殿ではなく鳥居が描かれているだけである。

「ガールズパンツァー」の場合には巫女は登場しない。モデルとなった地に立つ大洗磯前神社には聖地巡礼と称してファンが押し寄せ、数多くの痛絵馬<sup>(16)</sup>が奉納されている。しかしながら実際にアニメに登場するのは鳥居だけである。市街戦の際に道路の前方に鳥居が立っている光景が映る場面しかない(4話)。劇場版の場合にも、戦車が鳥居から階段を下っていく様子が描かれているだけである。

「あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない」の舞台は秩父で、実際の光景が複数登場する。人気アニメとなって秩父神社にも聖地巡礼の参拝者が数多く訪れる。しかし秩父神社が登場するのは神社の垣根のみである。アニメ化された後にマンガ化されているが、こちらには垣根すら描かれていない。

鳥居であるが、「鳥居」に関する研究の蓄積は必ずしも多くない。昭和18年に鳥居に関するまとまった二冊の研究書、津村勇『鳥居考』<sup>(17)</sup>と根岸栄隆『鳥居の研究』<sup>(18)</sup>が刊行されている。とくに言及された具体的な鳥居の数など『鳥居考』が詳しい。その後も鳥居に関する研究書が数冊刊行されているが<sup>(19)</sup>鳥居に関する一般書がほとんどである。近年では藤本頼生『鳥居大図鑑』<sup>(20)</sup>が刊行されている。谷田博幸は、鳥居は神社関係者には冷淡に扱われており研究も昭和18年に刊行された二冊の著作に多くを負っていると指摘している<sup>(21)</sup>。

鳥居とは何かについて『鳥居考』『鳥居の研究』の両書は、古代の門をはじめ複数の説を説明している。しかしながら両書共に、現代社会(当時)における意味については、時代的な背景もあって、「鳥居は日本精神を表象する本来の姿」<sup>(22)</sup>という意味づけで一致している。

神道に関する辞典・辞典においても、鳥居の構造、歴史の種類等に関する説明は詳述されているが、意味そのものはきわめて単純である。『神道大辞典』には「古来神域象徴の爲の主要なる施設」<sup>(23)</sup>、『神道事典』では「神社の神域の入口を示す「門」。……今日果たしている機能からするなら、俗界と聖域を分ける表象」<sup>(24)</sup>とされている。宗教学においても、鳥居は聖なる空間と俗なる空間の境界という文脈で解説されるのが一般的である<sup>(25)</sup>。

## 情報空間の中の鳥居

鳥居は現代の日本人にとってきわめて身近な境界を表象する装置である。かつて伝統社会においては、境界を表象するものとして塞の神、道祖神、地藏、塞の神、馬頭観音などが用いられていたが、都市や情報空間において、今日こうしたものは一般的ではない。一方で、鳥居人気とでも言えるような現象を複数指摘することができる。

世界最大の口コミ旅行サイト「トリップアドバイザー」は毎年「外国人に人気がある日本の観光スポットランキング」を公表しているが、第1位は京都の伏見稲荷大社で平成25年から5年連続で1位に選ばれている。注目されているのは、本殿の背後部に位置する稲荷山に設置された千本鳥居のようである。



伏見稲荷大社

伏見稲荷は以前から全国的に知名度の高い神社である。外国人観光客に人気があっても不思議ではない。しかし、まったく知名度のなかった、神社がインスタ映えするという理由で著名になり観光客を集めている事例がある。



元乃隅稲成神社

元乃隅稲成神社は山口県長門市（山口県長門市油谷津黄498）に位置する神社である。この神社は神社本庁傘下の宗教法人ではない。太鼓谷稲成神社（鳥根県）から分祀されて個人が祀っていたものである。平成26年7月に出版された『死ぬまでに行きたい！世界の絶景 日本編』（三オブックス）に掲載されてから多くの観光客が集まり始めた。平成28年6月にはトリップアドバイザーから発表された「行ってよかった寺社仏閣ランキング Top30」の11位にランクインし、以後海外の観光客も増加したといわれる。交通のきわめて不便な場所に立地しているにも関わらず、多くの観光客を集めたのは、ネットに投稿された画像が発端であったらしい。青い海を背景に緑の木々の中を赤い鳥居が続く光景が人々の関心を引いたようだ。



『電腦コイルアーカイブス』スタイル、2018年

鳥居が境界であり神社の境内が神域に近いイメージをもたせる作品がある。「電腦コイル」<sup>(26)</sup>では、鳥居の内側は空間管理局(情報管理をもっぱらとする省庁)の管轄外空間として描かれる。

電腦コイルの舞台は今より少し未来の202X年で、小学生も「電腦メガネ」と呼ばれる眼鏡型のウェアラブルコンピュータを装着している。電腦メガネを装着すると電腦ペットやコンピューターのバッグを見ることができる。主人公たちの住む大黒市の空間管理局は違法な電腦体を駆除するためにサーチマトンというソフトを配備している。視覚化されたサーチマトンは赤くて丸みを帯びた巨大なロボットのようなものである。主人公たちはバッグを持った電腦ペットをサーチマトンから守るために鳥居の内側に逃げ込む。サーチマトンの所属する空間管理室は郵政省の管轄であり、文化局の管轄である神社には入れない。鳥居の内側に滑り込めば、そこは電腦空間を管理しようとする管理室の権限外である<sup>(27)</sup>。神社の境内は管理された世俗的空間とは異なった空間として意識されており、その境界が鳥居である。

鳥居が神域の結界を表す延長線上の表現もポップカルチャーに見ることができる。「神無月の巫女」では、邪神ヤマタノオロチの手下であるオロチ衆は変形した赤い鳥居に囲まれた領域に集う。赤い鳥居は怪しげに変形していて、鳥居の内側が特別な空間であること

を示している。鳥居に囲まれて巫女が立っているなど、この作品には頻繁に鳥居や社殿が登場する。

「東京レイヴンズ」<sup>(28)</sup>は、「霊災」といわれる霊的災害が多発する現代において、陰陽師を目指す若者が活躍する物語である。主人公の土御門春虎は、自分の命と引き換えにして春虎を救った土御門夏目をよみがえらせるために陰陽庁の屋上で泰山府君祭を執り行なう。泰山府君祭を行うための場所は天壇といわれ、四方を鳥居で囲われた特別な場所である。そもそも「天壇」とは中国の皇帝が天をまつる儀礼を行うための壇であって、鳥居とは無関係である。四方を鳥居で囲むことで聖域であることを強調しようとしたものと考えられる。

さらに、ポップカルチャーにおいては、たんに「神社の神域の入口」や「聖なる空間と俗なる空間の境界」といった意味を飛び越えて、独自の発展をしたものと考えられるものがある。こうした感覚は、鳥居の研究書には出てこないが、我々の日常的な感覚の中には存在してきたものかもしれない。そうした感覚を維持（もしくは補助）しているのが世俗的な組織である「メディア」である点は十分に留意しておきたい。

「神無月の巫女」<sup>(29)</sup>では、地下の秘められた場所へ降りていくが、黒い木のかしいだ鳥居がくびすを接して立っている。「電腦コイル」では朽ちた木の鳥居のトンネルの向こうに記憶に繋がる世界があることになっている。主人公の小此木優子は霧のかかった階段を上っていく。

「地獄少女」<sup>(30)</sup>は原作のないオリジナルのTVアニメである。「午前零時にだけインターネットでアクセスできるウェブサイト「地獄通信」に晴らせぬ怨みを書き込むと、地獄少女が現れて憎い相手を地獄に流してくれる」という噂が流れている。実際に「地獄通信」に恨みを書き込むことができると、依頼者の前に長い黒髪に赤い瞳をした地獄少女・閻魔あいが現れる。恨みの相手は最終的に「イッペン、死んでみる？」と言われて地獄へと船に乗って流されるが、地獄の入口は黒い巨大な鳥居である。

原作のマンガでは、必ずしも鳥居が地獄の入り口であることは強調されていない。地獄の入り口であることがわかるように表象したのはアニメである。

京都伏見を舞台に繰り広げる変身ラブコメディ「いなり、こんこん、恋いろは。」の最終回で、ヒロインの伏見いなりは倉稲魂の眷属である狐にまたがって、狐火が灯る千本鳥居を通して高天原へと昇っていく。「かくりよの宿飯」<sup>(31)</sup>ではあやかしの住む世界である隠世と現世との境は鳥居である。ヒロインの津場木葵が鬼神に連れ去られるときも、またこの世に戻るときも必ず鳥居の前が描かれる。鳥居は異界への入口に立つ建造物、境界として機能している。

鳥居の向こうは多様に表現されている。第7回手塚賞を受賞した漫画家・諸星大二郎のマンガにも黄泉の境・入口としての鳥居がしばしば描かれている。代表作の「妖怪ハンターシリーズ」の主人公は異端の考古学者・稗田礼二郎である。稗田は自身が再興に関わった祭りが行われるを見に村を訪れるが、鳥居や祭りは観光客を意識したものに換えられ史実を大きく曲げるものだった。祭りの開始とともに鳥居の外から何者かが村内に入り、人を殺傷し建物を破壊していく。村の古老は鬼踊りを踊りながら異形の物を鳥居の先に見える異界へと導くのがあった。

作品の中で主人公の稗田礼二郎は、鳥居の先の異界を「異界……常世とは幸をもたらす神の国であると共に禍の来たる源でもある」と説明し、禍つ神が来ることもあると述べている。物語では、巨大な鳥居が崩壊することで異界の入口は閉じたのだった。

鳥居は神社の神域の入口を示す門であり、聖なる空間と俗なる空間の境界に立つ建造物である。鳥居は現在でもふたつの異なった世界を行き来する門、通路の意味を持っていると考えていだろう。そして、二つの異なった世界は、アニメやマンガの中でイメージネーションとともに多様な展開を遂げて我々の目の前に現れている。鳥居の向こうのさまざまな「異界」もまた現実世界では失われた領域である。

## 高層の神殿

ポップカルチャーで描かれる神殿は、モデルがある場合にはほぼその通りに描かれる。アニメ聖地巡礼に関するマップがインターネットで公開されており、そうしたのを見ると、著名な神社から地元の神社まで、相当数の神社が舞台になっていることがわかる。こうしたモデルとなる神社がある場合とは異なって、わざわざ架空の神社が描かれる場合がある。作中で伏見稲荷神社の千本鳥居を初め、境内のさまざまな場所を克明に描いた「いなりこんこん、恋いろは。」で、伊奈里神社の主神・宇迦之御魂神（通称は「うかさま」）が起居しているのは池の中に建つ社である。伏見稲荷神社にそうした場所は見当たらない。「うかさま」はこたつに入ってコンピューターゲームをしている。

フィクションとしての神社に関して、時に、高層の社殿が描かれることは指摘しておきたい。「神無月の巫女」では月に社殿が建っているが、出雲大社の古代神殿をなぞったような姿をしている。「刀使ノ巫女」には宗像三神が登場する。「タキリヒメ」は市ヶ谷の防衛省で厳戒体制の下に軟禁されている。広大な軟禁空間の中に古代神殿に似た社殿が置かれている。見るからに特別観のある建物である。どれも出雲大社の古代神殿を模したと思われるが、現在しない社殿のイメージがメディアの中では脈々と受け継がれていることに

なる。

## 巫女

無数といっていいほどの作品の中から都合のいいものを選ぶ必要がないほど、巫女や神社の出現は頻繁である。「氷菓」の主人公・折木奉介の自宅は神社の前である。境内の中から鳥居と狛犬が描かれたフレームで折木の家が描かれている。「けいおん」の主人公・平沢唯の自宅の隣は神社の入口である。時代も場所も不明で、赤い霧が立ち込める廃墟が広がる世界の物語「ケムリクサ」<sup>(32)</sup>のりつは巫女服を着ている。りつは「ミドリちゃん」と呼ぶ樹を自在に操る女性である。三例を挙げたが、どれもふつうに視聴しているときには気づくことすらないかもしれない。しかしながら同じような形式で寺院や教会、シスターや僧侶が描かれることはない。

巫女であるが、「主に神社で神職を補佐して祭事や社務を行う女性」<sup>(33)</sup>という表現がもっとも一般的ではないだろうか。七五三やお祭り、初詣に参拝した際に、巫女装束といって白衣に緋袴を着用している姿は現代日本人にもなじみのあるものだ。

他方で、巫女とは狭義に「巫女の本来の性格は上記の通り、霊媒として特赦な素質を有する女性」であり「カミや靈魂の憑依のヨリシロとなり、その託言をつなげることが巫女の基本的機能である。」「もっとも広い意味では神につかえる聖なる女性を示す」<sup>(34)</sup>である。

アニメ・マンガにおいても両タイプを確認することができる。先に挙げた現実に近い神社を描いた場合には、当然ながら巫女は前者である。主役として登場する場合にも、たとえば「らき☆スタ」は女子高生の日常を描いた作品であり、主役の姉妹が巫女として描かれる場合はセーラー服の代わりに巫女装束を着ている、という風に描かれる。廃校を予告された自分たちの高校を存続させるためにアイドル活動を行う「ラブライブ!」では、メンバーの一人(東條希)が神田明神で巫女のアルバイトをしていることになっている。高校を舞台にしたミステリー作品「氷菓」に主人公の同級生として登場する伊原摩耶花は、同級生に神社の子弟がおり、アルバイトで巫女をしている。探せば枚挙にいとまがないほどあるだろう。

特別な能力を持つ存在としての巫女こそ、アニメやマンガに特徴的に現れるキャラクターである。

「かみちゅ」は突然神様になった中学生の物語であるが、主要登場人物の一人に同級生で家が神社の三枝祀(まつり)がいる。三枝祀は神社が貧乏であるため金儲けを考えている。祀はほとんど巫女姿で登場しないが、他方で妹の三枝みこは神通力により祭神の八島

様を視ることができ、会話も可能である。三枝みこは主人公や姉と同じ中学校に通う生徒でありセーラー服姿でも描かれるが、巫女姿が圧倒的に多い。三枝みこが姉と異なって祭神と話すことができる証左として巫女姿が描かれているように思える。明らかに姉との対比で峻別されている。すべてとはいかないが、特殊な能力者として描かれる巫女は、黒髪が基調のように思える。

すでに引用したわずかな例からも明らかなように、「巫女」の登場には、ローカリティの強調、特殊な能力者、そして「萌え」としての意味が認められそうである（もしくはその複合形態として）。

## 聖地化する神社・巫女

アニメと聖地巡礼を語る際に必ずといっていいほど言及される作品のひとつに「らき☆すた」がある<sup>(35)</sup>。公式ホームページに掲載された概要は次のようなものである。「おたくな女の子「泉こなた」のボケに突っ込む普通の女の子「柊かがみ」を中心とした、ゆるゆるな、何でもない女子高生の日常を面白おかしく描く4コマ漫画を元にした斬新な作品。「あ、それよくあるよねー」と言った共感できる出来事を素直に描いた生活芝居」(<http://www.lucky-ch.com/>)

「らき☆すた」の聖地とされるのは埼玉県久喜市に位置する鷲宮神社である。先に述べたように、作品中では、主人公4人の中の二人、柊かがみ・つかさの実家である鷹宮神社として描かれる。鷹宮神社への聖地巡礼を扱った論文や著作では、聖地巡礼はきわめて当たり前として説明される。しかしながら、原作のマンガ、そしてアニメ、結果としての神社への聖地巡礼の状況を正確に確認すると、そう自明ではない経緯がわかってくる。

まず原作となったマンガにどの程度神社に関する表現があるのか確認してみよう。「らき☆すた」は月刊のゲーム雑誌『コンプティーク』に平成16年1月から掲載された1回が3ページの4コママンガである<sup>(36)</sup>。掲載当初から、柊姉妹の実家が神社で巫女として奉仕していることが強調されたわけではない。掲載から1年たった平成17年1月号に、「かがみ達だってお正月に巫女のコスプレするじゃん 自分家の神社で」というセリフが掲載され、2月号に正月、巫女姿で奉仕する二人が描かれている。しかし、四コママンガということもあってか、鳥居や神社は見えない。姉妹の巫女姿は全10巻中数度しか描かれぬ。姉妹の父親もときどき登場するが、神職の装束を着ているわけではない。家も普通の家であって神職の家を想起させるようなものは見当たらない。

作品と神社を強く結び付けたのは「テレビ」である。テレビアニメ化される際に、原作

のマンガになかった神社や神道に関わる要素が意図的に多く付与されている。後述するように、その結果としてモデルとなった神社が特定され、いわゆる聖地巡礼が生じるようになった。

「らき☆すた」は人気になったマンガ・アニメであり、成功した聖地巡礼の典型でもあるので、マンガとアニメでどう神社に関する表現が変わったのかを考察することには十分に意味があると考え。もともと1回に3頁ほど掲載される4コママンガであり、テレビ放送に求められるだけのストーリーが用意されていたわけではない。それゆえに、マンガとテレビ放送の場面が直接対応しているわけではない。その点ではテレビアニメを担当する制作者の意図が反映されやすかったのではないか。単行本に収録された、最大限神社に関わる部分を抜き出すと以下のようになる。

図表2 マンガ「らき☆すた」に描かれる神社関係場面一覧

巻	頁	内 容
1	66	こなたがかがみに電話で「夏祭りは初詣みたいにまた巫女とかやるの?」
1	69	こなたがかがみに道路上でメアドの話して「普通の「メイドさん」とか「巫女さん」は人気があってすでに・・・」
2	9	こなたが「つかさ達は今年も神社(うち)の手伝いするの?」
2	15~16	こなたとこなたの父親が柗姉妹の神社に初詣。巫女姿の柗姉妹
2	18~19	こなたとこなたの父親が柗姉妹の神社に初詣。巫女姿の柗姉妹
6	27	こなた、柗姉妹、みゆき4人の立ち話、かがみ「私達も今年は自分の家で初詣したくらいよ」
6	118	長女のいのりが巫女姿で授与品の頒布
7	39	こなたが留学生を神社に連れて行くのでかがみに電話「かがみん家が神社だって話したらぜひ行きたいって・・・特にないかな 最低巫女の準備さえあれば」
7	122	新聞を読んでいるのをかがみに聞かれたこなたが「かがみ達の家の神社のことが載ってるって聞いたからさー」
8	2	友だちと初詣帰りの様子(どこの神社か特定できない)
8	22	高校の担任が応援している野球チームの絵馬を神社に奉納
8	95	*こなた「設定的には鷲宮神社にあたるトコロはかがみの実家なワケで」
8	123	友だちが神社を訪ねて「ここが鷲宮神社かあ〜!!」
8	134	頁の空きスペースにかがみとつかさの巫女姿
8	135	*土師祭の話題、らき☆すた神輿が背景に描かれている
8	巻末	「土師」と背中に記された祭半纏をまとう柗姉妹
9	136	*初詣の境内の様子、絵馬
9	137	頁の空きスペースにおみくじを持つ巫女姿のかがみ
10	71	*初詣で巫女姿の柗姉妹

(\*を付けた項目は「埼玉新聞」に掲載された4コママンガ。すでに鷲宮神社が舞台として知られてからのことで、神社の実名が入っている。)

マンガでは会話の中で柊かがみ・つかさ姉妹の実家が神社と言及されることが多い。神社の名前は出てこず、社殿が描かれることもない。初詣を扱った回が何回かあるが、初詣らしい雑踏や灯籠の一部が描かれるだけである。注目されるのは「巫女」である。2巻の会話は極端にオタクな主人公こなたの文脈での「巫女」であり、8巻で登場する「友だち」のアメリカ人留学生パトリシアもまた極端なオタクである。アニメでの鷹宮神社が実際の鷲宮神社であることが周知され、聖地巡礼が起こってからは、主役の二人はイラストなどでも巫女姿で描かれるようになる。あらためて、アニメ、マンガだけでなくゲームやコスプレなどサブカルチャーにおける巫女の位置付けについても考察されているのではないかと考える。

テレビでの神社や巫女の扱いはどうだろうか。もともとマンガが掲載された『コンプティーク』という雑誌は「KADOKAWA 発行のパソコン・ゲーム・美少女などを取り扱うメディアミックス雑誌」(Wikipedia)であり、オタク度の高い本とっていいだろう。テレビでの放送は平成19年4月から9月までで、テレビ埼玉、チバテレビ、熊本放送などの独立UHF局を中心とした16局での放送だった。放送枠は日曜深夜(たとえばテレビ埼玉は深夜の1:30から2:00までである)で、特定の視聴者を想定していると考えていいだろう。放送期間は平成19年4月から9月で全24話からなっている。

鷲宮神社への聖地巡礼のきっかけとなったのは番組のオープニング映像であった。アニメのオープニングのワンカット目は主役の一人泉こなたが田んぼのあぜ道で踊っている映像で、ツーカット目が鷲宮神社の鳥居を背景にした場面である。大ヒットしたオープニングテーマ「もってけ!セーラーふく」をBGMにして主役の一人柊かがみが独特な歩き方で登場するのである。映像は鳥居をはじめ右手に見える店舗などきわめてリアルに描かれている。

各話ごとに神社や巫女とかかわる部分の一覧を示すことが可能であるが、かなり数が多く重複を避けて説明を行う。放送の最初の頃だけだと思われるが、話の途中でほんのワンカットであるが、神社の本殿を初めとした建物(第1話)、鳥居の内側から境内の外(第3話)が挿入されている。どちらも本編のデフォルメされた絵柄と比較してきわめてリアルに描かれている。

マンガにはなかった自宅がしばしば描かれている。自宅は通常の二階屋であるが、よく見ると家の右側に木々が生い茂っており神社の杜であろうことが推測される。高い棒が立っており、神籬のようなものが縄にぶら下がっている。しかし、この映像をどれだけの視聴者が精査するようにじっと見ているか疑問である。

第2話では、両親が午前中地鎮祭に出かけているとされ、昼食に帰宅した両親とともに

食卓を囲む。父親の衣装は、実際にはないが、地鎮祭のままの狩衣を着た装束で、母親は巫女装束となっている。

柊姉妹が巫女姿で現れるのは第12話「お祭りへいこう」である(第11話「いろんな聖夜の過ごし方」でこなたが「かがみたちだってお正月に巫女のコスプレするじゃん、自分の神社で」という場面で一瞬かがみの巫女姿が映る)。タイトルは「お祭り」であるが、実際には初詣をテーマにした回である。

第12話では、鳥居、大晦日に参道を歩く参拝者、参拝の列の向こうに灰色の塊として描かれた本殿の映像が映る。授与所でかがみ・つかさの二人が参拝者に應對している。「有明から帰ってすぐ家の手伝い」とぼやく二人のところへこなたが現れる。こなた「巫女服、新鮮」、こなたの父親(おたくでロリコン)「女学生って、いいな〜」、つかさ「今年もおみくじとかやっていかない?」と一連のおみくじ話し。こなた「この中の何人がお父さんと同じで巫女目当てなのかな」と話す。

この他に神社や巫女を連想させるものに神棚がある。柊家の居間で団らんする光景や友だちとコンピューターゲームをする様子がかかなり頻繁に描かれる。居間にきわめて不自然な大きさの神棚が設置されている。

ゲームをする柊姉妹や泉こなたがテレビ画面の方から描かれている。その背景に神棚が映るのである(3話、5話、6話、10話、14話、15話、17話、19話)。神棚は床の間のように組み込まれたものではなく、部屋の中に置かれている。アニメなので、大きさを正確に計ることは困難であるが、およそ幅は一間以上、半間ほどの台座の上に設置され、四方に柱が立って幕屋がかかっている。神棚自体も立派な三社宮型で、榺立てに榺、瓶子、かがり火にロウソクまで立っている。こうした巨大な神棚が居間に置かれた神職家は、知る限りでは、存在しない。テレビ用に十分意図的に挿入されたものである。その意図はどういうものだろうか。ストーリー自体がオタク的な文脈で組まれており、神社や神道そのものを想起させるというよりは、登場場面には必ず柊姉妹が描かれていることから、巫女との関わりを想起させようとしたものにちがいない。

聖地巡礼の事例としての「らき☆すた」については北海道大学観光学高等研究センターのグループが詳細な研究を積み重ねており、多くの研究成果が残されている。山村高淑による商工会経営指導員へのインタビューによると、ファンが鷲宮神社へ「ひっそりと訪れ始める」のは平成19年4月にテレビ放送されてからのことである。「アニメでは、オープニングの一部に鷲宮神社の鳥居と門前にある大西茶屋(鷲宮商工会経営の茶屋)が主要登場人物とともに描かれていたのが、その場面は数秒であるにも関わらず、これらロケ地がどこであるかを探り当てたバイオニア的ファンが徐々に鷲宮神社を訪れるようになった。ア

ニメ放送開始（平成19年4月）直後、ファンがひっそりと神社を訪れ、ひっそりと写真を撮って帰って行く、というパターンが多かったという<sup>(37)</sup>。山村高淑が作成した年表に従ってその後の経緯を見ると、同年7月になって『月刊ニュータイプ』8月号の付録「らき☆すた」的遠足のしおり」で鷲宮神社が作品の舞台となっていることが紹介されてから大勢のファンが鷲宮神社へ訪れるようになる。新聞社から取材を受けた鷲宮商工会が来訪者へのヒアリングを開始する。10月には商工会の事務局のスタッフが角川書店に企画書を持ち込み、イベント開催の提案が受け入れられた。

イベントは12月2日に「らき☆すた」のランチ&公式参拝 in 鷲宮」として開催された。主催は鷲宮町商工会と鷲宮町商工会青年部である。参加者は3500人であった。当日の様子はインターネット上でレポートされ、動画でも見ることができる<sup>(38)</sup>。テレビ埼玉が同日の様子を報道した。主役の二人を初めとした4人の声優が登場し、原作者も駆けつけた。翌年の正月には前年比17万人増の30万人が参拝に訪れ、その後も増加した。

平成20年6月、土師祭興会の会長から商工会に、ファンの祭りへの参加を呼びかける提案があり、九月七日の土師祭に「らき☆すた神輿」が登場した<sup>(39)</sup>。土師祭で「らき☆すた神輿」が盛り上がる様子は、北海道大学観光学高等研究センター・グループの一員であった岡本健が写真と共に説明している。岡本は「地域文化とアニメ文化が融合し、人々はそれをきっかけに神社に集う。情報社会の現在、鷲宮神社は、新しいかたちで人と人、人と場所とを結びつける場所となっているのだ」と文章を締めくくっている<sup>(40)</sup>。

## リアルとフィクションの間で

北海道大学観光学高等研究センター・グループの一員佐藤善之が、なぜ神社が聖地巡礼の対象となるのかについて考察を行っている<sup>(41)</sup>。佐藤の指摘を考察することで、「地域文化とアニメ文化が融合し、人と人、人と場所とを結びける場所」となったのかどうか考察したいと思う。

佐藤は、「らき☆すた」の分析を通して、1. 非日常性、2. 公共性、3. 固有の行事の存在の三点を挙げる。以下、佐藤の論点を要約する。

佐藤によれば、神社は一般的に宗教的（非日常的）な空間として認識される。お守りやお札を受けることで非日常を体験する。「これは非日常性を求める行為、観光としての聖地巡礼とうまく合致する。また、神社に与えられた聖性は、神社をファンにとっての宗教的聖地へと変えていく。つまり、ファンならでは非日常的空間として認識されるのだ」<sup>(42)</sup>という。

次に公共性であるが、神社は開かれた場所であり巡礼者と地域との軋轢が生じにくい。公共性があるからこそ「オタク絵馬に代表されるコミュニケーションを行うことが可能となる。」<sup>(43)</sup>それゆえに神社境内におけるファン同士、地域をも交えたコミュニケーションスポットを比較的容易に作り出すことができると指摘する。

神社には初詣など特有の行事があり、これら行事が聖地におけるイベントとして受容され「与えられた聖性がさらに高まることとなり、空間の非日常性を高める結果となる」という。

要するに、佐藤が論文の冒頭で述べているように、「神社は公共性を持つ空間であり、誰にでも開かれた場所として存在する。そして、神を祀る非日常的空間でもある。神社の持つこうした特質が聖地としての発展を助け、結果として多くの参拝客を集めたのではなからうか」<sup>(44)</sup>という言説に集約される。

佐藤の説明における、神社の宗教性、非日常性、聖性、公共性の概念が曖昧で、結局は「神社だから」という指摘に留まるように思える。ところで佐藤の考察と矛盾する指摘が、北海道大学観光学高等研究センター・グループの研究成果に複数見られるのである。リアルな神社とアニメに描かれた巫女や神社との間には微妙なずれが存在し、そのことはファンと神社にとって十分認識されているように思えるのである。

本論の冒頭で述べたように、人気となり聖地巡礼の代表的事例といわれる鷲宮神社や大洗磯前神社は作中では鳥居しか描かれない。制作者側からすれば、神社の由来やご祭神、年中行事などを正確に伝える必要性は感じていないだろう。重要なのは神社ではなく主役をはじめとした女性キャラクターが巫女（もしくは巫女の装束を着ること）であるにちがいない。それは視聴者も同じである。

「らき☆すた」の聖地としての成功が述べられる際に土師祭におけるらき☆すた神輿の存在が指摘される。平成20年に登場したらき☆すた神輿は以後毎年登場し、千貫神輿とともに鷲宮神社前でもみ合いが行われているという。平成22年には上海国際博覧会でも担がれたと、その賑わいぶりが紹介されている<sup>(45)</sup>。しかしながら土師祭は鷲宮神社の祭りではない。鷲宮神社の平成31年の祭典は、歳旦祭（1月1日）、年越祭（2月14日）、例祭（3月28日）、春季祭（4月10日）、夏越祭（7月31日）、秋季祭（10月10日）、大西祭（12月初西の日）である。土師祭は地域住民が主催する祭りである。それゆえにらき☆すた神輿は鷲宮神社の境内には入らず、神社前でもみ合うしかないのである。

同じくメンバーの今井信治は鷲宮神社に奉納されたいわゆる「痛絵馬」2922枚の分析を行っている。興味深いのはオタク関係の痛絵馬が置かれている場所である。痛絵馬は拝殿から一番遠く、参道からも見えない場所に多く見られるのである。今井は「ここで考えら

れるのは、「オタク関係」の絵馬を奉納する者が、神社そのものあるいはその関係者に対して何らかの引け目を感じている可能性である」と指摘している<sup>(46)</sup>。「オタク関係」の絵馬に書かれているのは「かがみんは俺の嫁」といった「〇〇は××の嫁」や「〇〇結婚してくれ」といったキャラクターへ宛てたものであって、鷲宮神社への祈願ではない。絵馬を掛ける者はこの違いを承知していて本殿からは遠い見えない領域に置くのである。絵馬の中には「すみません神様 不純なうきでできましたが、ちゃんとおまいりました」という記述が見られたという。今井は土師一流催馬楽神楽保存会会長からも、同じ内容の会話を聞いたことを記している<sup>(47)</sup>。

先に記した「らき☆すた」のランチ&公式参拝 in 鷲宮」は鷲宮神社の駐車場で行われたが、神社側は鷲宮商工会からの要請に応じて貸与したものであって、神社が積極的に「らき☆すた」を利用して参拝者を集めようとしたわけではない。当日のレポートによれば、イベントの最初に、まず主催者側が参拝したわけではなく、イベントでの盛り上がりそのままの流れで神社への参拝に向かうことになったという。

今井によると、「神社側は『らき☆すた』聖地巡礼」に対して不干渉の立場」を採っている。参拝者が来るのも、絵馬の奉納も拒むことはないが、神社がイベントを主催したり境内をそうした目的のために利用することはしない。地元の商工会や商店街の要望であれば神社は協力する。しかし、神社の尊厳が損なわれるようなことは首肯しない。

鷲宮神社を訪れる「らき☆すた」のファンと鷲宮神社の氏子が見ている鷲宮神社は異なっている。神社を訪れるオタクたちはそのことを意識しているし、神社側も感じ取っている。両者を取り持っているのは地元の人々である。「らき☆すた」でいえば、鷲宮商工会や土師祭興会ということになる。

平成30年8月11日、鷲宮神社の鳥居が倒壊した。老朽化によるものとされる。「らき☆すた」の象徴的な場所であった鳥居の倒壊にファンはどのように反応したのだろうか。倒壊直後はインターネット上で寄附に関する言説が見られたが、その後ファンによる寄附が行われた形跡はみられない。鳥居も再建されていない。また、崇敬会に大勢のファンが入会したという事実もない。リアルな神社とフィクションとしての神社は異なるものである。

神社からアニメの聖地となったことへの積極的な関与はほとんど見られないのではないか。地元の振興と関わる問題であり、神社としての立場を前面に出して対立することは望ましくない。一時の賑わいとして対応するのがもっとも適切と考えられているのではないだろうか。まだ「聖地巡礼」という言葉が流通する以前に、作品によって大勢のファンが訪れ、痛絵馬が寄せられた神社がある。「セーラームーン」に登場する火野レイの実家として登場する東京十番（麻布十番）の火川神社（氷川神社）である。東京の一等地ですで

に地元の住民は郊外へ流出していたが、元旦には氏子がかがり火を焚き参拝者に甘酒を用意するなどしていた。そこへマンガやアニメで知ったファンが押し寄せたのである。中には主人公と同じセーラー服を着た男性が何人も参拝に訪れたという。地元の老人達は何かと固まったという話を聞いたことがある。神社ではとくに何もせず、流行が過ぎるのをまった。

あらためてアニメに登場する神社を見ると、いくつか興味深い点が散見される。たとえば、アニメ・マンガに登場する神社は、必ずしもよく知られた神社ではない。筆者が調査した神社の知名度に関する調査によれば、ほとんど全ての人知っている神社は伊勢神宮と明治神宮である<sup>(48)</sup>。しかしながら、両神社を舞台にしたアニメは見られない。神社では企画が持ち込まれたり取材の申し込みがあったときには、内容を検討の上で回答するのが一般的である。そうした場合にはエンドロールに取材協力として神社の名前が掲載される。神社によっては取材を断る場合もあるのではないだろうか。

制作者の側には明らかに意図するところがあるだろう。作者や制作者の郷里が舞台となるときには、その土地を象徴するものとして描かれることがある。しばしば引用してきた「らき☆すた」の作者である美水かがみは舞台となった鷺宮町の隣の幸手市出身である。「咲-Saki-阿知賀編」は麻雀が社会に広く浸透した世界で女子高生が競い合う作品である。東京での大会の場面に地元で応援する様子が挿入されるが、場面が切り替わるたびに郷里の風景として神社が現れる。神社はローカリティの象徴である。地域社会と強い繋がりを有する施設としてローカリズムを表現する際に用いられ、作品にリアリティを付与している。

神社を場として巫女や神々が、場合によっては妖怪が出現し怪異が発生する。他界や異界<sup>(49)</sup>への入口や通路となる。作品によってはこうした「神社」の在り方は「鳥居」によって表象されることもある。この他にも「萌え」としての巫女のバックグラウンドとして神社は登場する。そして、これらの要素はしばしば複合的に用いられている。

神社がこうした複合的な意味を有することが可能なのは、視聴者である若者と制作者との間で共有されているから、もしくはそうした意味が喚起されたときに受容できるからである。共有される意味は、神社が提供する正当な在り方とはずれている。情報化と高度消費社会を前提にして、「神社」は複合的な意味を持つものとして情報空間に存在している。

アニメによる聖地巡礼の成功事例として取り上げられる「らき☆すた」の舞台である鷺宮神社でさえ、訪問するファンは減少している。アニメに限らず、大ヒットした「冬のソナタ」「北の家族」などでも時の経過とともに訪れるファンは少なくなった。鷺宮神社では、聖地巡礼の象徴的な場所であった鳥居は倒壊し、門前の大西茶屋は店を閉めた<sup>(50)</sup>。放送後10年経ってのことだった。大西茶屋では「こなたぬき」「かがみの鏡餅うどん・そば」「柗

姉妹の双子海老天そば」「黒井先生の関西風にしんそば」など登場人物に因んだメニューを提供していた。2階は展示コーナーになっており、グッズが揃っていた。声優のサイン色紙も飾られていて、ファンには十分魅力のある場所であったと思われる。

映画や小説の舞台とポップカルチャーにおける聖地巡礼がどう異なるのか、経緯をみなければならぬ。また、本論ではアニメ・マンガでの神の表象については紙面の都合上扱えなかった。神社と巫女だけでなく、キリスト教やカルトがどのように描かれているのか、あるいは描かれていないのかについても、今後の課題として稿を改めて考察したいと思う。

## 注

- (1) 石井研士「アニメと神道」『現代宗教』（平成23年）、石井研士「機械の中の幽霊」(『宗教研究』第377号、平成25年)、石井研士「ポップカルチャーと宗教序論」(『國學院雑誌』第116号、平成27年)、石井研士「ポップカルチャーと宗教：マンガ・アニメにおける「生まれ変わり」」(『國學院大學大学院紀要』第48輯、平成29年)、石井研士「魔法と変身：「魔法少女」形成期における「魔法」」(『國學院大學紀要』第56巻、平成30年)、石井研士「「魔法」という矛盾：「魔法少女」形成期における「魔法」の位置付けについて」(『國學院雑誌』第119号、平成30年)。アニメ・マンガを中心としたポップカルチャーと宗教に関しては、「ポップカルチャーと宗教序論」(『國學院雑誌』第116号、平成27年)参照。石井研士「戦闘美少女と魔法：「セーラームーン」と「プリキュア」に見る魔法の意味」(『國學院大學紀要』第50輯)平成31年
- (2) ライトノベルの鎌池和馬『とある魔術の禁書目録』（電撃文庫、平成16年より）をもとにしたマンガ、アニメ
- (3) 平成19年に放送されたテレビアニメ、全26話。）に登場するセインの服装は、まだ正規のものの延長線上に見えるかもしれない。しかし、「蒼空のフロンティア」（株式会社フロンティアワークスと株式会社フロントメディアが平成21年に制作したウェブ上の多人数同時参加型ゲーム）に登場するシスター（らしき女性）はあまりに逸脱しているといえる。
- (4) マンガ・原作・ボヘミアンK、マンガ・宗我部としのり『あまえないでよっ!!』（ワニブックス、平成25年より）、アニメ
- (5) 平成27年から放送されたアニメとその後のマンガ「朝霧の巫女」（マンガ・宇河弘樹『朝霧の巫女』（少年画報社、平成12年より）とその後のアニメ）「天地無用」（平成4年に制作されたOVA、その後のアニメ、小説、マンガ）「ぎんぎつね」（マンガ・落合さより『ぎんぎつね』（集英社、平成20年）をもとにしたアニメとマンガ）「氷菓」（ライトノベルの米澤穂信『氷菓』（角川スニーカー文庫、平成23年）をもとにしたアニメとマンガ
- (6) マンガ・末次由紀『ちはやふる』（講談社、平成20年より）

- (7) 競技かるたは近江神宮内の近江勸学館で行われる
- (8) マンガ・よしだもろへ『いなり、こんこん、恋いろは。』(角川書店、平成22年より) その後のアニメ
- (9) 現実に近い巫女・神社として、『高天原に神留坐す』(平成25~26年、3巻)、『神社のススメ』(平成26年6月号から平成28年8月号、4巻)、『ギンギツネ』(平成20年~、13巻)、『神主さんの日常』(平成25年、2巻)などを挙げるができるが、アニメ化されたのは「ぎんぎつね」で平成25年に13話放送された。どれも神社を舞台に神職や巫女の日常を描いたものであるが、必ずしも人気があったわけではなさそうである
- (10) マンガ・武内直子『美少女戦士セーラームーン』(講談社、平成4年より)とアニメなど
- (11) マンガ・美水かがみ『らき☆すた』(角川書店、平成16年より)とその後のアニメ
- (12) 平成24年制作のアニメとその後のマンガ
- (13) 平成23年に制作されたアニメ『あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。』と岡田麿里の小説(メディアファクトリー)、その後のマンガ
- (14) マンガ・唐々煙『曇天に笑う』(マックガーデン、平成25年より)とその後のアニメ、実写映画
- (15) 小説・森見登美彦『有頂天家族』(幻冬舎、平成19年)とその後のマンガ、アニメ
- (16) アニメやマンガのキャラクターが描かれた絵馬のこと
- (17) 内外出版印刷株式会社印刷部、昭和18年
- (18) 厚生閣、昭和18年
- (19) 川口謙二・池田孝・池田政弘『鳥居-百説百話』東京美術、昭和62年、稲田智宏『鳥居』光文社、平成14年、清水昭三『鳥居はなぜ倒れない-神社・原爆・天皇制』溪流社、平成16年、谷田博幸『鳥居』河出書房新社、平成26年
- (20) グラフィック社、平成31年
- (21) 谷田博幸『鳥居』河出書房新社、平成26年、6~10頁
- (22) 津村勇『鳥居考』(内外出版印刷株式会社印刷部、昭和18年、4頁
- (23) 『神道大辞典』臨川書店、昭和61年、1060頁
- (24) 『神道事典』弘文堂、平成11年185・187頁
- (25) 「第二節 宗教の規程-聖と俗」柳川啓一・阿部美哉『宗教理論と宗教史』(放送大学出版会、昭和60年)
- (26) 平成19年に制作されたアニメ。宮村優子の小説(徳間書店、平成19年)、その後のマンガ
- (27) 物語が進行すると、より強力なサーチマトンが出現し、鳥居の内側にも入ることができるようになる。
- (28) 小説・あざの耕平『東京レイヴンズ』(KADOKAWA、平成22年)をもとにした平成25年制作のアニメ

- (29) 介錯による平成16年のマンガと同時並行で制作されたアニメ
- (30) 平成17年から放送されたアニメ。その後小説、マンガ
- (31) 小説・友麻碧『かくりよの宿飯』（角川書店、平成27年）を元にしたマンガ、アニメ
- (32) 『ケムリクサ』は平成22年から平成24年にかけてニコニコ動画に投稿されたオリジナルアニメ作品
- (33) 『神社事典』133頁
- (34) 『神道要語集 祭祀篇』一般財団法人神道文化会、平成25年、1023頁
- (35) たとえば岡本健『マンガ・アニメで人気の「聖地」をめぐる神社巡礼』（エクスナレッジ、平成二六年）、  
由谷裕哉・佐藤喜久一郎『サブカルチャー聖地巡礼』（岩田書店、平成26年）、酒井亨『アニメが地方を救う！？「聖地巡礼」の経済効果を考える』（ワニブックス、平成28年）など
- (36) 現在まで単行本は10巻
- (37) 山村高淑「観光革命と21世紀：アニメ聖地巡礼型まちづくりに見るツーリズムの現代的意義と可能性」  
北海道大学観光学高等研究センター・文化資源マネジメント研究チーム編『CATS叢書第1号 メディアコンテンツとツーリズム 鷲宮町の経験から考える文化創造型交流の可能性』北海道大学観光学高等研究センター、平成21年、14頁
- (38) [http://www.lucky-ch.com/info/info\\_event\\_071202.html](http://www.lucky-ch.com/info/info_event_071202.html), [https://search.yahoo.co.jp/video/search?p=%E3%80%8C%E3%82%89%E3%81%8D%E2%98%86%E3%81%99%E3%81%9F%E3%80%8D%E3%81%AE%E3%83%96%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%81%EF%BC%86%E5%85%AC%E5%BC%8F%E5%8F%82%E6%8B%9D+in+%E9%B7%B2%E5%AE%AE&ei=UTF-8&aq=-1&oq=%E3%80%8C%E3%82%89%E3%81%8D%E2%98%86%E3%81%99%E3%81%9F%E3%80%8D%E3%81%AE%E3%83%96%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%81%26%E5%85%AC%E5%BC%8F%E5%8F%82%E6%8B%9D+in+%E9%B7%B2%E5%AE%AE&ai=eKNMS6PgS6GwjCQ4d4yJA&ts=1045&fr=top\\_gal\\_sa](https://search.yahoo.co.jp/video/search?p=%E3%80%8C%E3%82%89%E3%81%8D%E2%98%86%E3%81%99%E3%81%9F%E3%80%8D%E3%81%AE%E3%83%96%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%81%EF%BC%86%E5%85%AC%E5%BC%8F%E5%8F%82%E6%8B%9D+in+%E9%B7%B2%E5%AE%AE&ei=UTF-8&aq=-1&oq=%E3%80%8C%E3%82%89%E3%81%8D%E2%98%86%E3%81%99%E3%81%9F%E3%80%8D%E3%81%AE%E3%83%96%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%81%26%E5%85%AC%E5%BC%8F%E5%8F%82%E6%8B%9D+in+%E9%B7%B2%E5%AE%AE&ai=eKNMS6PgS6GwjCQ4d4yJA&ts=1045&fr=top_gal_sa)
- (39) 同、25～26頁
- (40) 岡本健監修『マンガ・アニメで人気の「聖地」をめぐる 神社巡礼』エクスナレッジ、平成26年、15～17頁
- (41) 佐藤善之「いかにして神社は聖地となったか 公共性と非日常性が生み出す聖地の発展」73～84頁、  
北海道大学観光学高等研究センター・文化資源マネジメント研究チーム編『CATS叢書第1号 メディアコンテンツとツーリズム 鷲宮町の経験から考える文化創造型交流の可能性』
- (42) 同、83頁
- (43) 同、83頁
- (44) 同、73頁
- (45) 同、17頁
- (46) 同、97頁

- (47) 「若い人に、話してたらね、何か「アニメマンガのような不純な動機で、ここが好きになってごめんなさい」って言った人がいまして、「いやいや、いいですよ」って言ったんですよ」(同、99頁)
- (48) 『世論調査：日本人の宗教団体への関与・認知・評価の20年』(庭野平和財団、令和元年)参照
- (49) 他界と異界の区別は具体的な作品を念頭において使用している。学術的な用語として区別していない
- (50) 平成29年2月11日営業を終了。平成30年11月より「らき☆すた」とは無関係な店舗として再々開店した